



**藤沢市
電子回覧板
普及支援ガイド
2025**

**持続可能な地域運営を
目指して**

目次

1. はじめに
2. 電子回覧板とは
3. アプリ紹介
4. 電子回覧板導入にあたって
5. 電子回覧板導入事例
6. Q & A (よくある質問)
7. まとめ

01 はじめに

認定NPO法人湘南ふじさわシニアネットは、藤沢市と協働し、令和6年度「ミライカナエル活動サポート事業（市民活動提案制度）」として、令和6年度から2年間にわたり「電子回覧板普及支援事業」を実施いたしました。

本ガイドは、この2年間の活動を通じて実際に電子回覧板を導入した自治会・町内会（以下、「自治会」という）の経過や知見を、これから導入を検討される皆様の参考となるよう一冊にまとめたものです。

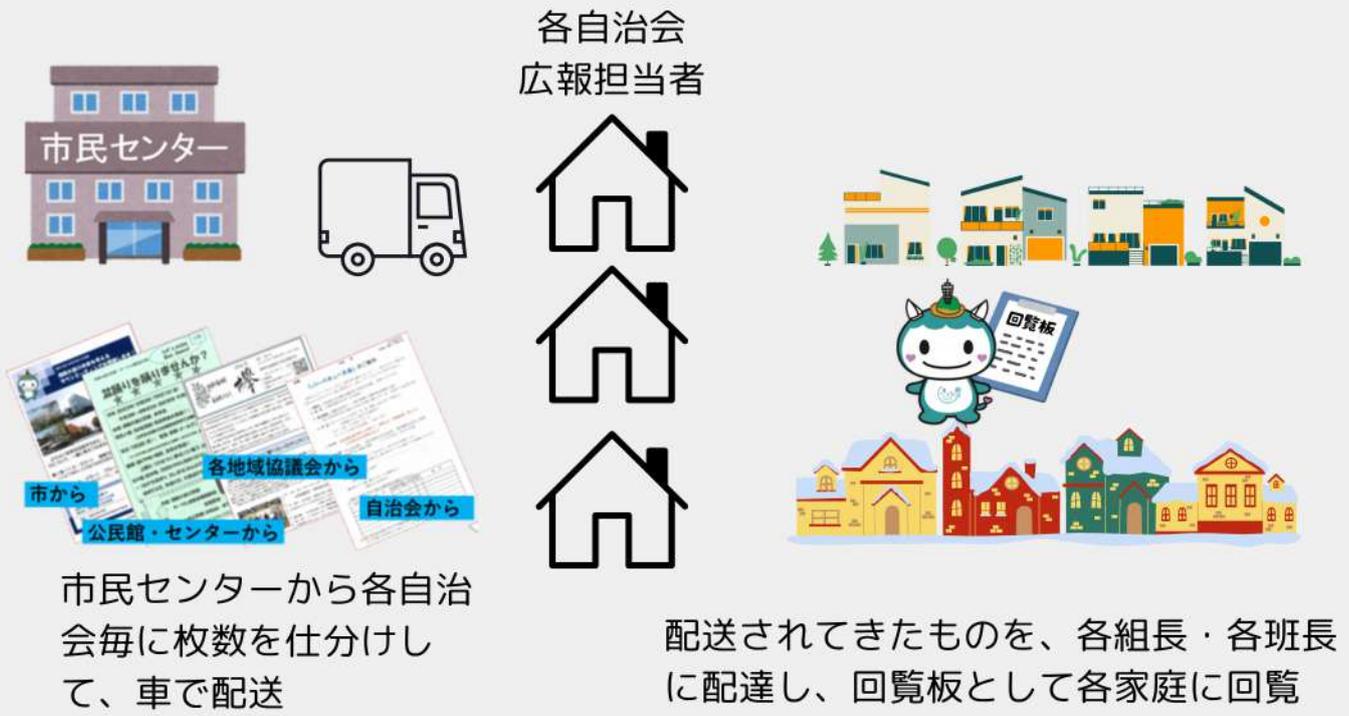
本ガイドが、地域の情報共有を円滑にし、自治会運営の負担軽減の一助となれば幸いです。





02 電子回覧板とは

回覧板配布の現状



電子回覧板の導入



03-1 アプリ紹介

*アプリの内容は変更される事があります。
ご利用の際は最新の情報を確認してください。

自治会の電子回覧板として利用できるアプリはいくつも存在し、それぞれに特徴があります。以下では、私たちが研究したものをいくつかご紹介します。

これらのアプリはそれぞれ機能が異なっており、自治会のニーズに合わせて選ぶことが重要です。利用する際には、最新の機能やアップデート情報を確認することをお勧めします。

(なお、ここに紹介するものは、2025年7月の情報です)

01 LINE オープンチャット

特徴

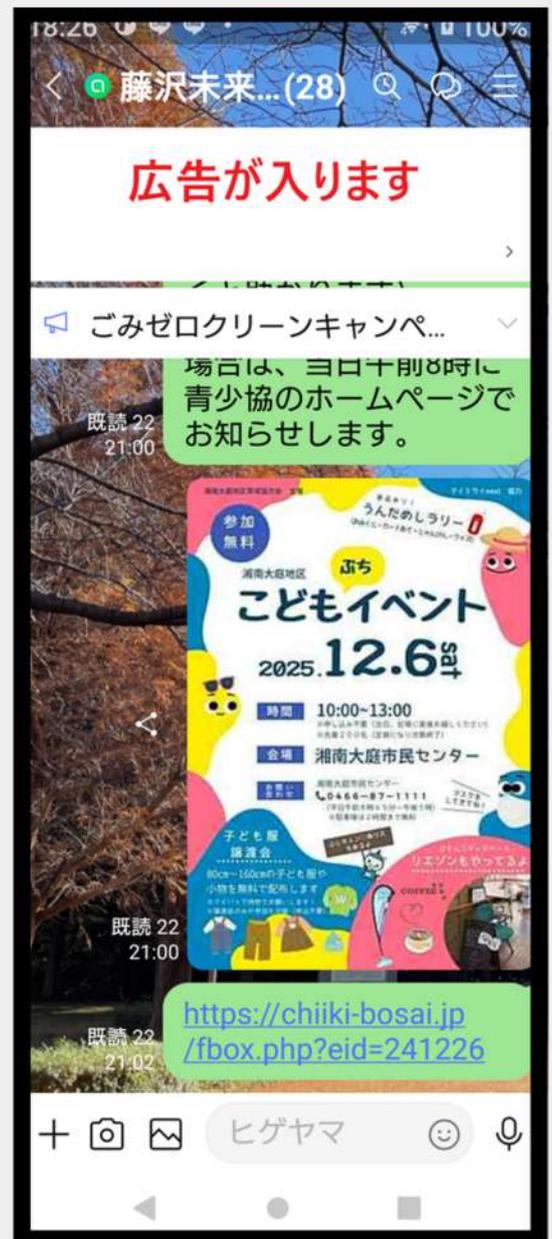
- 使い慣れている人が多い
- 参加が容易（LINEの利用者は名前の登録のみ）
- 画面が直感的で操作がシンプルで分かりやすい
- 未読の一番古い回覧物がトップに表示される（見落としが少なくなる）
- 災害時の緊急連絡に利用できる
- 無料で使える
- 広告が入る

料金体系

- 基本的には無料

自治会利用における利点

- 参加者の管理が可能
- 読んだ人の数が分かる
- スマホからも投稿ができる



特徴

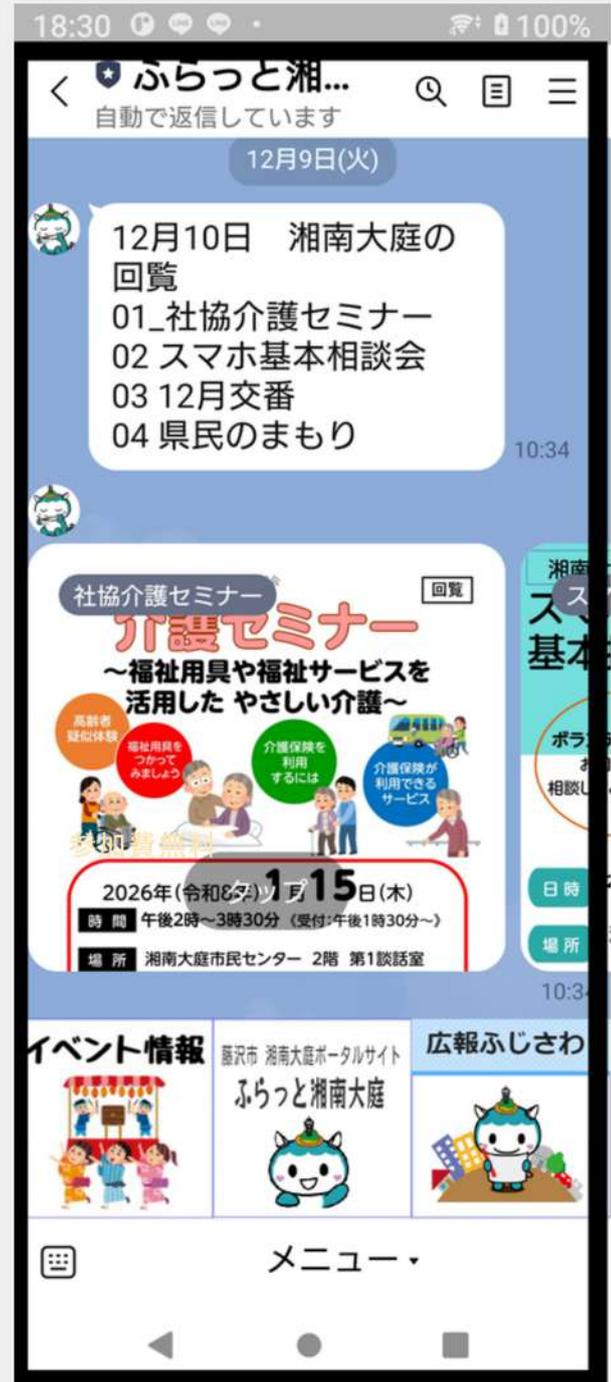
- ・公式感と信頼性：自治会専用のアカウントとして運用でき、メッセージが埋もれにくい。
- ・高いカスタマイズ性：リッチメニューを活用し、ホームページやカレンダーへリンク可能。
- ・使い慣れている人が多い
- ・LINE利用者であれば参加が容易
- ・古い回覧物もサーバーに残される
- ・画面が直感的で操作がシンプルで分かりやすい
- ・有料である
- ・広告が入らない

料金体系

- ・ライトプラン
(月額：5,000円 メッセージ数：5,000数)
- ・スタンダードプラン
(月額：15,000円 メッセージ数：30,000通)

自治会利用における利点

- ・他システムへのリンクボタンを付けられるのでホームページと連携しやすい
- ・機能の拡張が容易(カレンダーやイベント予約等)
- ・参加者からの投稿の宛先は管理者で他の参加者には見えない
- ・有料なので広告は入らない



特徴

- グループコミュニケーションに特化したアプリ
- 掲示板、カレンダー、投票、チャット等の機能が豊富
- アルバム、ライブ配信、ファイル共有等が使用可能
- 招待制や非公開設定が可能
- 動画やライブ配信を使った情報発信も可能

料金体系

- 無料（広告が入る）

自治会利用における利点

- 参加者の管理ができる
- 読んだ人の数が分かる
- 多様な機能が使える



04

My自治会

特徴

- 自治会向けに作られたアプリ
- 電子回覧板の他、オンライン集金、アンケート、災害時の安否確認や出欠確認機能も可能
- イベント告知や会員への情報共有に特化
- クレジットカードによる自治会費集金代行の機能がある

料金体系

- 世帯数に応じて年会費が発生
(例：100世帯以下で年会費10,000円、851世帯以上で50,000円など)
- オンライン集金を利用する場合、振込時に決済手数料5%が発生

自治会利用における利点

- 電子回覧板だけでなく、オンライン集金や安否確認など、自治会運営に役立つ機能が一体となっている
- 無料期間が長く、試しやすい
- 参加者の管理ができる
- 回覧物はPDFファイルも利用できる
- 回覧物に対して閲覧者がコメントを送ることが出来る



特徴

- 「回覧板」だけに徹したアプリ
- アプリのインストールが必要だが、最初に自治会名称を入力するだけで回覧板を受信できる（氏名等の登録が不要）
- 登録後はアプリを立ち上げるだけで見ることができる
- 回覧を見る操作は簡単
- 無料版でも回覧数や利用者数の制限がない
- 参加者は投稿が出来ない
- 開催期間を設定でき、残り掲載日数が表示される

料金体系

- 無料版あり、有料版 月額5,000円
回覧板配信だけで使うのであれば、無料版で利用できる
(回覧板以外の機能を使用する場合は有料)

自治会利用における利点

- 会員は自分の情報を一切入力しなくて閲覧できる
- PDFファイルも利用できる
- 簡単なアンケート機能がある



自治会・町内会でホームページを運用している場合、メール配信を組み合わせることで、情報の伝達スピードと閲覧率を大幅に向上させることができます。

「メール配信」を組み合わせるメリット

ホームページに情報を掲載するだけでは、住民が自ら見に行かなければ情報は伝わりません。

掲載と同時にメールを送ることで、住民は「新しい情報が届いた」ことをリアルタイムに知ることができます。これにより、見落としを防ぎ、確実な情報共有が可能になります。

<主な配信方法の種類、各種メールによる通知方法>

①ブラウザメール・プロバイダメール配信

Google Chrome、Microsoft Edge、Safariが代表的インターネット接続サービスを提供するプロバイダ（NTT系の「OCN」、KDDI系の「auひかり」、ソフトバンク系の「ソフトバンク光」、楽天など）が発行するメールアドレス及びメールサーバーサービス）

普段お使いのメールアドレスから手軽に送れますが、一度に送れる件数に制限があるため、少人数のグループ向けです。

②メール配信専用アプリ配信（メルマガ配信）

多数の会員へ一斉送信するための専用システムです。

大量のメールを自動で分割して送る機能があります。

送信したメールに対し、届かなかったメールが分かり配信管理が可能です。

③SNSアプリによる配信

LINE、Instagram、Facebook等が有名。LINE、Facebookなどの通知機能を利用します。

LINEを利用し電子回覧板を配信している自治会もあります。

ブラウザメール・プロバイダメールよりも開封されやすく、若い世代への周知に効果的です。

<運用上の注意点>

送信件数の制限：一般的なメールサービス（Gmail等）や携帯キャリアのメールには、1日の送信数上限（約200～500通程度）があります。会員数が多い場合は複数回に分けて送るか、専用の配信システム（②）の検討が必要です。

メールアドレスの管理：会員のメールアドレスは重要な個人情報です。BCC（他の受信者にアドレスが見えない設定）での送信を徹底するか、管理機能のあるアプリを活用しましょう。

04 電子回覧板導入にあたって

導入にあたっての注意点

紙回覧をすぐに廃止することは困難です、一時的には手間が増えますが、当面は「紙と電子の併用」で進めましょう。

デジタルに強い若い世代やサポーターの協力を求めましょう。

導入の手順

1) 自治会の現状を把握

- 自治会員向けのアンケートを実施し、電子回覧板を導入できる現状なのか把握
- アンケートの内容はスマホ、パソコン等もっていますか？電子回覧板を利用しますか？等、簡単にネットで回答できるように工夫
- アンケートフォームを2次元コードで回答できるようにする。
狙いとしては、その2次元コードから回答された数で、デジタルへの適応具合を図ることができる。



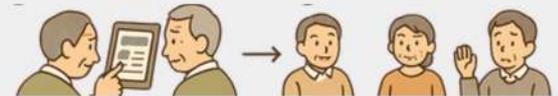
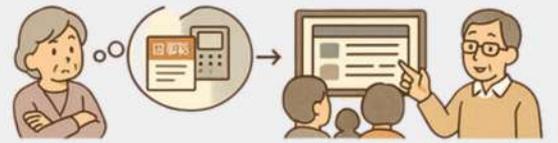
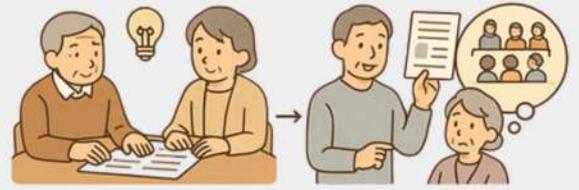
2) 導入するツールの検討

- 役員会体制や地域の現状や課題を確認
- 自治会に合ったツールの検討



3) 導入に向けた体制の構築

- 体制の構築
- 運用イメージと体制の検討
- 会員への周知方法の検討
- 紙媒体との併用の検討
- 運用準備
- 運用者や役員の研修会
- ツールの試験運用開始
- 試験運用結果の検証、導入の決定



4) 運用開始後の検討

- 利用者の拡大、促進
- 再周知の実施
- 会員向けの登録研修会の実施検討



5) 今後に向けて

- 会員へ利用状況のアンケート
- 継続の体制づくり
- 運用者用マニュアル作成
- サポーター（協力者）等募集



05 電子回覧板導入事例

実際に電子回覧板を導入した自治会・町内会の事例を紹介します。

これから、始めようとする自治会・町内会の方々に参考にいただければ幸いです。

導入された自治会・町内会

地区	自治会・町内会	導入アプリ
片瀬	片瀬山3丁目自治会	LINE公式アカウント
湘南大庭	ささら自治会	LINE公式アカウント
辻堂	辻堂駅前町内会	LINEオープンチャット
明治	折戸町内会	LINEオープンチャット
村岡	並木台町内会	My自治会 + LINEオープンチャット
湘南台	円行一丁目自治会	BAND
辻堂	辻堂東海岸三丁目町内会	BAND
辻堂	桜花園自治会	BAND
湘南台	とどろき自治会	BAND
湘南大庭	B地区藤沢自治会	BAND

<LINE公式アカウント>

片瀬地区 片瀬山3丁目自治会



世帯数：約460/組・班数：30組/役員数：13名

特徴：50年以上前にできたサラリーマンの街で高齢化が進行しましたが、最近は建て替えなどにより外部からの転入してくる若い世帯もあり高齢化率は低下し始めています。ただそれでも高齢化率は高いです。

1) 導入前

紙回覧板や配布物を班ごとに仕分けする作業が、役員にとって大きな負担となっていました。こうした役員（班長含む）の負担軽減を行い、若い世代にスムーズに自治会運営を引き継ぐ体制づくりが急務となっていました。

2) 導入検討

役員が毎年交代するため、2023年度の有志数名で「導入検討チーム」を結成しアプリの検討のテストを重ねました。

その中で、電子化と紙回覧は並行して運用する事を決めました。

アプリ検討する中で、LINEは多くの人が利用しているインストール不要であり、高齢者の利用率も80歳代で5割と高かった事と、双方向通信が可能である事から使い慣れているLINEの採用を決定しました。

登録時「LINE公式アカウント」は住民確認の為、住所・氏名を記載して頂く事にしました。

3) 運用開始

2024年9月役員会審議で全会一致で導入決定。

2024年10月全会員へ周知し本格的に運用を開始。導入キャンペーンをスタート。

同時に半年間は高齢者向けの操作説明会や一般的なスマホ相談会を繰り返し実施し十分丁寧な説明を行い不安の解消に努めました。

2025年9月現在の登録者は493名に達し世帯数では約8割が登録しています。紙回覧利用の世帯数は1/3まで減少するという大きな成果を上げています。

導入検討の方へ

若いやる気のある人は必ずいます。役員全員が一丸となってやれば必ずできます。



<LINE公式アカウント>

湘南大庭地区

ささら自治会



世帯数：343 / 組・班数：12組 / 役員数：15名

特徴：横長に広がる地区で、小糸川を境に開発当初からの居住している世帯と新入居世帯に分かれている地区です。2つ公園があり公園では子どもたちの元気な声が聞こえる活気ある地域です。

1) 導入前

2023年の役員会において、会員の減少により役員のなり手不足が常態化し、負担軽減の切り札として広報配布の電子化案が持ち上がりました。

2) 導入検討

負担軽減策として広報の配布を電子化する案が提起されるなかで、2023年10月頃会員の方に同意をいただき会館にWIFIを完備し、デジタル化の基盤を作りました。試験的に役員のみで「LINE公式アカウント（無料版）」を試験導入。公式LINEで可能なこと（回覧物の電子化や自治会館のネット予約など）について検討を進め、回覧板の電子化や会館予約の利便性を検証、その結果を翌年に本格導入する方向で総会の議題に盛り込みました。結果LINEの認知度が高く、広く利用されているLINEの団体版「LINE公式アカウント」を活用することにしました。

3) 運用開始

2024年9月に有料の「プレミアム版」へ移行し、全会員へ告知。登録案内を回覧板に掲載するなどの工夫により、2025年9月現在で201名が登録しています。
※無料版では全会員に十分な情報を提供できないため、総会議案書に予算を盛り込み承認された上で運用。

導入検討の方へ

電子回覧板を始めた結果、若い会員の方より

「資料は、いつでも、どこでも閲覧できるクラウドを利用して欲しい」等、前向きな提案をいただけるようになった。このように前向きなご提案をいただける事で世代交代へ良い刺激となっています。将来役員への参画が見込めるので、手始めに電子回覧板を早く進めた方が良くと思います。



<LINEオープンチャット>

辻堂地区 辻堂駅前町内会



世帯数：600 / 組・班数：41組/ 役員数：12名

特徴：エリアが広く、商業施設や銀行、店舗なども含まれる地域です。個人宅以外の加入も多く、情報の迅速な伝達が求められていました。

1) 導入前

市の説明会に参加したことがきっかけで、役員負担軽減（班長・組長含む）や、将来の世代交代や役員の負担軽減のために、電子化の必要性を強く感じていました。

2) 導入検討

役員会で粘り強く説得し、導入に踏み切りました。アプリの選定では、LINEはもともと入っている方が多く、新たなアプリのインストールも不要で費用がかからない「LINEオープンチャット」を選定しました。通知もシンプルに来るので、ホームページやメールと違い、探す手間がないことが便利と感じた為採用決定しました。

3) 運用開始

2025年4月に全会員へ告知し、6月の総会にて賛成多数で承認。

2025年7月全会員に回覧で登録開始。

2025年9月現在73名の方が登録済みです。

送信者として文章作成・投稿時は「ノート機能」を活用することで、情報の精度と後からの閲覧性を高めています。

導入検討の方へ

地道な努力が必要です。

紙回覧で配布を繰り返す事で登録者を増やしましたが紙回覧自体を見ない人がいる為、紙回覧配布を繰り返す事で周知し登録者を増やしてきました。また、催事のお花見や地区リクレーションで、未登録の人へ声かけも継続しました。津波避難訓練時にも説明会も開き、説明内容としては紙回覧板等準備時の作業について役員や部長・組長へアンケートを取った結果を元に、作業量が多い事を説明し電子回覧板登録促進に向けお願いしました。登録用チラシも配布し促進した事も良かったと思います。登録が少ないからと諦めないで努力する事が大切だと思います。



<LINEオープンチャット>

明治地区

折戸町内会



世帯数：545/組・班数：30組/役員数：28名

特徴：町内会の特徴：戸建てがメインですが、マンションも加入しています。アパートは準会員とし個々に配布物の配布はありません。近年、高齢者世帯が増加傾向にある地域です。

1) 導入前

紙の回覧板が1周するのに1ヶ月前後かかることもありましたが、最初と最後の世帯で伝達スピードに差が出る「情報伝達の不平等」の解消が大きな課題でした。

2) 導入検討

マンション世帯や若い世代へ情報を確実に届けるため、なじみがあり受け入れやすい「LINEオープンチャット」に絞り、協力者と協議を重ねました。又、電子回覧板を導入すれば、町内会からのイベント等のお知らせが届くと参加者も増えるのではないかと考えました。

2024年の講習会へ参加した時は、オープンチャットの説明が無く導入は難しいと考えていましたが、LINEは多くの会員に受け入れやすいと考え「LINEオープンチャット」に絞り協力者と協議して導入決定しました。

3) 運用開始

LINEオープンチャットの利用には不安がありました。特にオープンチャットは会員が簡単に投稿ができてしまい、個人投稿すると電子回覧部分が隠れ、スクロールしないと回覧を見る事ができず手間がかかる為悩んでいましたが、投稿を禁止するなど利用上のアイデア等提案いただき導入することが出来ました。

2025年6月5日に開設、会員数540世帯ですが、12月現在137人（同一世帯で複数人含む）が参加しています。

導入検討の方へ

案ずるより産むが易しの例え通り、とりあえず始めるのが第一歩ですよ。会員増の工夫としては、イベント等の時に電子回覧板の話をする事で参加者が増え、高齢者も参加する様になってきました。



<My自治会+LINEオープンチャット>

村岡地区

並木台町内会



世帯数：460/組・班数：18/役員数：20名

特徴：戸建中心の分譲開発地、ここ数年でほぼ分譲完了。
30代の若い世代が少ない地域です。

1) 導入前

役員の負担増によるなり手不足と、それに伴う退会者の増加が深刻な課題でした。町内会を存続させるためにも、負担軽減が急務でした。若い世代へ引き継ぐことへの不安もありました。

2) 導入検討

2024年12月に、アンケートを実施したところ約6割の賛成を得られました。

金銭負担なしで導入可能なもので選定。

多機能な「My自治会」をメインの電子回覧板とし、速報用に「LINEオープンチャット」を併用する体制を整えました。

緊急性や速報が必要なものをLINEオープンチャットで配信等使い分けすることで、それぞれの長所を活かす発信方法にしました。

3) 運用開始

2025年7月に運用を開始し、「My自治会」

「LINEオープンチャット」とも306名が参加。

班長の負担が軽減されました。

更に、カムチャッカ地震発生時に自治会発の正確な情報を即座に共有できたことが、会員から高く評価されました。利用者からは「もっと早く導入してもよかったのでは!」と賛同をいただきました。

災害時等町内会LINEで確認できたのが大変良かったと情報共有の有用性についての声が多かったです。

導入検討の方へ

自治会存続に必要なアイテムが電子回覧板だと感じます。

ホームページ等に比べ維持が簡単で、こちらから発信した情報を見てもらえます。

まずは導入してみることにしたいと思います。



<BAND>

湘南台地区 円行一丁目自治会

世帯数：580 / 組・班数：25 / 役員数：25名

特徴：駅前繁華街からは少し離れた住宅街で、戸建・マンション世帯が活動の中心。
一部地域は高齢化が進む半面、若い世帯の流入も続いています。

1) 導入前

紙の回覧に不便さを感じる若い世帯への対応と、その若い世代に自治会活動をより身近に感じてもらう必要がありました。

電子回覧板についてアンケートを実施したところ、紙回覧板は安否確認の意味合いがあるが、一方で紙回覧は取り扱いに煩わしさを感じている世帯もありました。

デジタルの利便性への期待も大きい状態でしたが、電子回覧板の操作等、取り扱いについての不安の声もありました。

2) 導入検討

長期運用のためにコストを抑えられる無料サービスを検討。

有料アプリだと議論に時間を要するのと、継続が難しくなるおそれがあると考え、BANDを検討、BANDは管理者権限で細かくオプションを設定でき使い勝手も良いので「BAND」に選定しました。

3) 運用開始

試行期間約1年（役員会での使用）電子回覧板導入は2025年5月。

現在、紙回覧と電子回覧の2通りで運用。

2025年9月現在、参加者数:88

今後、区や組の希望により、紙回覧から電子回覧への切り替えも検討。

導入検討の方へ

電子回覧板導入に対し、慎重なご意見も少なからずあるので、長い目で見ると活動とした方がよいと思います。

ただ、始めないことには変わらないと思います。電子化への全切り替えは難しく長期的な取り組みになります。



<BAND>

辻堂地区

辻堂東海岸三丁目町内会



世帯数：566/組・班数：12組53班/役員数：40名

特徴：津波被害が想定される沿岸地域のため、防災訓練をはじめとする安全対策に非常に力を入れている町内会です。

1) 導入前

津波被害が想定される地域のため、防災訓練に力を入れています。

役員負担が多く軽減しないと世代交代へ引き継げないと思い、具体的な手段を検討し始めました。

2) 導入検討

自治会の若い世帯の会員からの要望があり、導入の検討を始めました。

新規回覧がある場合にラインと同じく通知の赤いマークが付いて通知機能が分かりやすく、写真などの共有もしやすいので便利だと考え

「BAND」を導入、紙の回覧の代替えではなく補完と捉えて開始しました。

3) 運用開始

2025年1月に本格導入を実施。

会員には、紙の回覧板を継続することを明言して高齢者の不安を除き、一方スマホならではの「いつでも見返せる」メリットや、都度、イベントの日時を確認できることをアピール。

2025年9月現在で、99名が登録しており便利さが大好評です。

導入検討の方へ

手間は少し増えますが、紙の回覧の補完と考えることをお勧めします。

今ではイベントの参加申し込みを回覧の回収だけでなく、紙の回覧に二次元コードを印刷しスマホでも申し込み可能としています。



<BAND>

辻堂地区

桜花園自治会



世帯数：480/組・班数：36組/役員数：27名

特徴：茅ヶ崎市に隣接し、世代交代が進みつつある一方、長年住み続けている高齢者も多い駅近な住宅地です。

1) 導入前

自治会員から、紙の回覧では「情報伝達の遅さ」や「回覧の負荷を減らしたい」という声が、時折入っていました。

また自治会全体の高齢化に伴い「組長業務の免除」を希望する世帯も増えていました。

2) 導入検討

2024年9月役員会内に検討チーム発足。デジタル化を通じた情報伝達速度や利便性の向上および将来的な運営負荷の削減を目的として取り組み始めました。

10月に自治会員へのアンケート実施。

12月に役員+検討チームにて試験運用を開始。

2025年2月に説明会を実施。希望者が試験運用に参加。

2025年4月の総会で導入を正式に決定しました。

3) 運用開始

参加者の方から以下のようなコメントを頂いています。

アプリ（BAND）の導入により「従来の回覧板のように何度も回ってこない（回覧の手間が無い）こと」「必要に応じて見返せること」「カラーかつ画質が良く細かい地図なども拡大して確認できること」「カテゴリごとにフィルターして確認できること」等が良いと喜ばれています。説明会を複数回実施し、現在は250アカウントを超えています。

導入検討の方へ

2025年4月に運用開始以降、アプリ導入説明会を複数回に実施しました。

説明会ではアプリのインストール方法を記載したチラシを使い、簡単操作である事をわかってもらう事ができた事で導入会員が徐々に増えていきました。

早く始める事をお勧めします。





世帯数：112/組・班数：7/役員数：6名

特徴：湘南台エリア北部の、静かな住宅街に囲まれたアットホームな自治会です。

1) 導入前

市の説明会に参加し、役員の負担軽減は将来に向けて必要と思いました。また、若い世代への引き継ぎのためにも電子化は必須であると感じました。

2) 導入検討

利用料が無料のBANDを計画、ファイル保管が無制限、カレンダー機能、参加確認、LINE同様なチャット機能、「トーク」機能があり、個別にコミュニケーションが取ることが出来て便利です。役員で約半年試行を行い、年度末の総会で正式導入を決定しました。

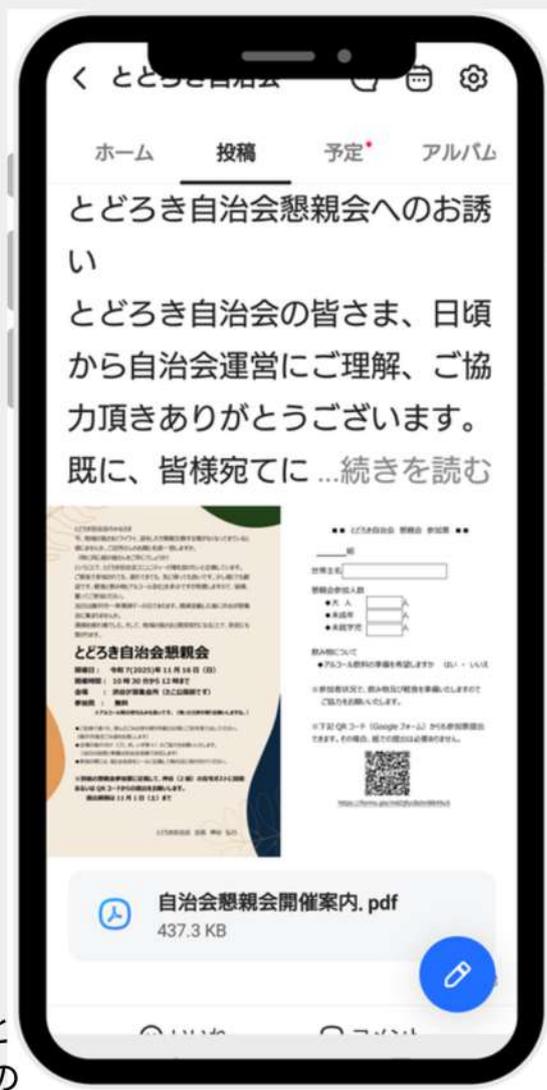
3) 運用開始

2025年3月に総会で説明と参加登録を実施。総会資料の中に導入二次元コードも入れ、総会后引き続き電子回覧板の説明し、その場で参加登録実施。2025年4月本格導入開始（世帯数の約5割）が利用。利用いただいている方には大好評です。

導入検討の方へ

導入に向けての参加依頼が大きな課題になります。メールやチラシ等の配布よりも対面での説明、その場で二次元コードからの招待を行う方法が有効でした。

当団体では、2025年3月総会で説明し資料の中に説明と導入二次元コードも入れ、総会后引き続き電子回覧板の説明をおこないました。その場で参加登録実施していただいた事が成功した一因と思います。



<BAND>

湘南大庭地区

B地区藤沢自治会



世帯数：165/組・班数：17組/ 役員数：12名
特徴：戸建て住宅のみの地域で、居住者の高齢化が比較的進んでいるのが特徴です。

1) 導入前

事前アンケートでは操作に不安を感じる方が7割を超えていました。しかし、「今後の時代の流れ」を考え、「できる人から始めよう」と導入を断行しました。

2) 導入検討

選定したアプリ「BAND」
無料で双方向のやり取りが可能な「BAND」を選定。まずは役員1名が管理する体制からスタートし、無理のない範囲で運用を始めました。

3) 導入開始

2025年9月現在で65名（約40%）が参加。身近な情報「アライグマの出没」「集会所の玄関に手すりが欲しい」との投稿も寄せられるようになり、少しずつ会員の中でも活用いただけている様子。カラーで鮮明な情報をいつでも見られる利便性は、若い世代を中心に高く評価されており、紙の回覧板を飛ばしてほしいと要望も出始めています。

導入検討の方へ

今後、デジタルの勢いはより強くなるため、早めに着手した方がいいと思います。



Q

個人情報保護に関しては？

A

アプリにより異なりますが、アプリのプライバシーポリシーを参照してください。アプリによっては、会員の個人情報を一切入手できないものもあります。自治会内においては、会の規定に「個人情報保護に関する規定」を制定して置けば良いでしょう。

Q

紙の回覧板は無くなりますか？

A

将来的にはなくす方向になりますが、デジタルに不慣れな方もいますので、すぐには難しいと思います。

Q

電子回覧板を導入した世帯から紙の回覧板は不要と言われました、どうしたらよいのでしょうか？

A

組や班の中で相談し、「電子回覧板をみているので紙回覧板は不要」と言われた世帯をスキップしてもらう事が良いでしょう。将来的に電子回覧板利用者が増えていく方向になると思います。

Q

電子回覧板でイベントの参加情報を取りたいのですが、できますか？

A

電子回覧板で発信する内容を、Googleフォーム等のアンケートフォームを利用する事でイベント等参加確認を取ることができます。

Q

電子回覧板を導入しましたが参加者が増えません、どうしたら増えますか？

A

いっぺんに参加者を増やす事を考えず、各種イベント時に案内をしたり、説明会を開いたり、紙回覧で電子回覧板登録を説明したり、繰り返し案内する事が大切です。

「05 電子回覧板導事例」の自治会・町内会の中にも同様の事例があるので参考に見てみてはいかがでしょうか。

Q

電子回覧板のアプリが多く、どれを利用したいらよいでしょうか？

A

アプリによりできる事が異なります。無料のアプリや有料のアプリ等費用面でも違います。本ガイドを良く読んで検討し、本ガイドの最後に、認定NPO湘南ふじさわシニアネットの連絡先を記載していますので、お気軽にお問い合わせをいただければ幸いです。

Q

電子回覧板アプリ登録をしてもらえない会員へ、アプリ以外の方法がありますか？

A

スマホにアプリをインストールしたくない会員も一定程度、存在するケースもあります。
その場合は、電子回覧板を多くの会員に見てもらう為、発信者はメール配信も併用する事も手段としてあります。手間が増えることとなりますが、グループメールを作り一斉配信する事で作業軽減が可能です。

Q

電子回覧板で回覧板以外に利用できますか？

A

電子回覧板は自治会運営に係るDX化の一助にすぎません。
アプリにより機能は異なりますが、役員負担軽減策として催事参加可否のアンケートや自治会費の集金等（手数料発生）も工夫次第で可能です。

Q

アプリは今後も増えていくと聞きました。良いアプリが出揃うのを待った方がよいのでは？

A

現在もアプリは多く存在しています。更に増える事も予想されますが、良いアプリを待っている間は役員の負担軽減は進みません。
どの時点で電子回覧板を始めるか、負担のかかっている役員で良く相談することが大切です。

Q

自治会でホームページを開設しています。ホームページへ電子回覧板のページをつくりアプリからリンクする事はできますか？

A

アプリからホームページへリンクして電子回覧板ページへ誘導する事ができます。メール一斉配信でホームページへリンクも可能です。

Q

自治会で電子回覧板を始めるにあたり、相談に乗ってもらえることはできますか？その場合費用はかかりますか？

A

藤沢市との協働事業として実施する2026年3月末までは、無料相談を実施しておりますが、4月以降は、有料で導入まで認定NPO法人湘南ふじさわシニアネットにて伴走支援を行うことが可能です。
最初の簡単な相談であれば無料に対応できますので、お気軽にお問い合わせください。

06 まとめ

<2026年度以降のフォロー体制について>

認定NPO法人湘南ふじさわシニアネットと藤沢市市民自治推進課による協働事業「電子回覧板普及支援事業」は、2026年3月末をもって終了いたします。

これに伴い、2026年4月以降も自治会の皆様が安心して電子回覧板の導入や運用を継続できるよう、以下の通りフォロー体制を整えております。

■ 専門的な個別支援（有償サポート）

継続的な技術サポートを希望される場合は、認定NPO法人湘南ふじさわシニアネットにおいて、専門的な伴走支援を行います。

※2026年4月以降の支援は有償となります。詳細はお問い合わせください。

また、自治会運営全般に関するご相談については、藤沢市役所市民自治推進課及び各市民センターが相談窓口となります。

今後も関係各所と連携を図りながら、持続可能な自治会運営をサポートしてまいります。

末筆ながら、皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。
ありがとうございました。

特定非営利活動法人 湘南ふじさわシニアネット

〒251-0052 神奈川県藤沢市 藤沢496 藤沢森井ビル604

電子回覧板普及支援事業プロジェクト

[電話番号] 0466-52-5577

[FAX番号] 0466-52-5578

[mail]] denkai@sfs-net.com

*電話は代表電話になります。

電子回覧板についてのお問い合わせは「電子回覧板」の件でご相談とお伝えください。尚、mailでお問い合わせも可能です。

